

---

# メタバース

godlove

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

メタバース

### 【Nコード】

N0555D

### 【作者名】

godlove

### 【あらすじ】

ネットゲームに熱中する38歳のダメサラリーマン。会社では後輩達に追い越されいまさらやる気も無い、ゲームの世界では有名人彼はゲームの世界で生きていたいと思うようになる。

## 彼の理想と現実

この世界で大事なことは多角的な物の見方にある。  
個に固執すれば何も見えず、何かを無くすこともあるかも。。

晴天：もうそろそろ寝るわぁ^^ノ

メル：あい^^おやすみ（つ　こ）オヤスミー

bow：おやすみ

ハル：じゃな

これはMMORPGというパソコンゲームのチャット画面だ。  
一つの仮想世界に大人数のユーザが集まり、モンスターを倒したりアイテムを売ったり、友達とお喋りしたりして遊ぶ。

こういったゲームは近頃流行っていて、幅広い年齢層に人気がある  
顔も知らない人との繋がり、画面上に映し出される文字とキャラ  
だけだが

各人がそのキャラになりきることで現実社会以上の関係が生まれる  
ことも多々ある

実際何度か誰にも言えないような事を相談されたこともあるし  
ゲームで知り合い結婚した人、いやキャラも何人か知り合いにいる  
俺はこの（英雄オンライン）にすっかりハマっていた。

会社が終われば同僚からの誘いも断り  
毎日遅くまでゲームをしている。

おかげでゲーム内では俺のキャラ（晴天）はなかなかの有名人だ。  
ゲームの世界は俺を解放してくれる

この世界では年齢など関係なく、小学生と40のオッサンが仲良く  
遊ぶ

顔もしらない者同士、毎日夜遅くまで時間を共有している。

このゲームのテーマは武俠だ。

古代中国の町並みと、スーパーマンのような技。

レベルが上がると装備できるようになるカッコイイ鎧。

すべてが俺の好みにマッチしている。

俺はオタクではないが、このゲームを始めてからは

確かにオタクの気持ちはわかる気がする。

仮想空間での俺は

ヨレたスーツで働く38歳のダメリーマンではなく

世界中から好かれる最強の戦士だ。

滅多に手に入らないアイテムをいくつも持ち

常に誰よりも早くレベルを上げている。

まあ、実際はレベル上げは業者に頼み

業者を通してレアアイテムを現金で買っているだけだが。

このゲームの特徴として（門派）システムがある

これは、気の合う友達（門派）つまりサークルを作って加入し

（門派）の大会で勝ち抜くというものだ。

俺が門主を務める門派「神撃」は過去に2回この大会で優勝している。

もちろん、優勝できたのは俺の力に依るところが大きい

俺はそんな事を口にしたことは一度も無い。

当たり前だ、俺は人格者で通ってるからな。

その時も、皆が口を揃えて

晴天さんのおかげだね

晴天さん強すぎ！

と言ってくれたが、そんな事ないよみんなの力だよと返しておいた。

ふう

と、気がつくともう夜中の3時だ

やばい、また遅刻するぞ早く寝なくちゃ。

俺が38歳にもなつてゲームにハマってしまったのは  
しょうがない事だとも言えた。

俺が18歳で入社したときは典型的な年功序列会社だったくせに  
25歳の時に急に社長が

「これからは実力が全てだ！」

なんて言い出して、以来どんどん後輩に追い抜かれてしまった。

もちろん、実力主義なら俺にもチャンがある！と思つて頑張った。  
しかし、またしても突然社長が

「これからは住宅リフォームでいくぞ！」

と、言い出して営業セミナーやらマニュアルの導入やらですつかり  
付いていけなくなった

一応、やるだけはやったが何をやっても裏目にでてこの有様

で、結局は実力主義の方針通り、俺は平社員の一つ上の班長どまり  
というか、あの頑張りを評価できない、または気づきさえしなかった

俺の会社はそのうち倒産するかもしれないな

やっぱり上だけやる気だしたって駄目なんだよな

要領の良い奴が得するだけで、本当に努力してる奴が報われないな  
んて

俺の会社は間違つてるなあゝ、俺このままでいいのなあ？

38歳独身、営業部班長。。。。

趣味、パソコンゲーム

また遅刻か吉沢あー！！

「うわー！！」

最悪の朝だ、うるさい課長に怒鳴られてる夢で起きた。  
朝7時ジャスト、今日は遅刻しないですむな。

営業部課長・加藤茂 27歳独身 わが社の期待の星。。。か  
会社行きたくねえなあ。。。。

俺は今日も憂鬱になりながらゴソゴソと布団から抜け出た。

3日前に着た、ワイシャツの匂いをちゃんと確認してから着て  
よれたジャケットを羽織り、ネクタイを締めながら

誰もいない我が家に「行つてきます」と小さく言つて外に出た。

## 現実の憂鬱

毎日同じ道、同じ電車、同じ会社

「この道のりは我が人生、かあ」

すこし曇った空を見上げると俺はいつそう淋しくなった

11月の寒気が俺の心に入ってきたみたいだ

いつもの時間の電車に乗り、今日も座れなかった。

電車が揺れるたびに、目の前の女性に触れそうになる

俺は、痴漢に間違われやしないかとヒヤヒヤした。

正直言つて少しでも女性に触れたら

俺は間違いなく痴漢に仕立て上げられるだろう

青いヒゲの剃り跡と、太い眉毛にだらしない垂れ目

お世辞にもいい男とはいえない事は自身が良く知っている

だから俺は両手をまっすぐ上げ

女性に向かって自分の潔白を証明するようにアピールした

ただ、少しだけ胸元が気になったのを気づかれたようで

思い切り睨まれてしまった。。。。

俺には春はこない。。。。

会社に着き、いつものように給湯室でコーヒーを入れる

ズズッと熱いコーヒーをすすりながら席についた。

20人いる我が営業部は今日も朝から騒がしかった。

俺と俺の部下2人を除いて、みんなバタバタと忙しそうにこの狭い部屋で働いていた。

月末の営業強化週間の為に、保留にしておいた案件をまとめるのに必死なんだろう。

ああ、もう月末かぁ。。もうすぐ門派大会だなぁ。。

「吉澤さん、おはようございま〜す」

部下の坂下の、気の抜けた朝の挨拶で今日もやる気がなくなってしまった。

おう！坂下おはよう！今日もいいスーツだな！

俺は精一杯の笑顔で答えた。

坂下は中途入社社員だが、部長が専務の息子という触れ込みで入社してきた。

その坂下が俺の班に入るというから、もしかして俺にも出世のチャンスか？

と、一時は期待をもったがなんのことはない、ただのバカ息子だった。

24歳にもなって、いまだ社会の常識というものをわかっていない。イタリア製かなにか知らんが、ピタピタのスーツにクツチかコツチかの靴

いつもナヨナヨして気に食わない。

まあ、それでも俺の一縷の望みには違いないが。。。

「おはようっすー！」

でたよ、こいつは山野。俺のもう一人の部下だ。

体育大学出身で熱血漢といえは聞こえはいいが、ただの筋肉バカ自分を「自分」とか「オス！」とか言う生き物を始めてみた。

声はバカでかいし気もきかない、それと最後に必ず「ス」をつけるのがうっとうしい。

まあ、上下関係だけはしっかり守るから俺が言ったことはなんでもする



それに何故かこんなダメな俺の下で働くことを誇りに思ってる変なやつだ

おう、おはよう（今日もうるせーな）

俺達営業部は会社の方針で班ごとに営業に出る、つまり毎日一緒。  
仲良し三人組ってわけだ。

営業職で毎日真面目に仕事してる奴なんかいない（と、思う）  
だいたい適当にパチンコ行ったり、喫茶店で商談と称してサボってる俺達はその典型だった、俺なんか坂下と山野に営業いかせて自分はネカフェで（英雄オンライン）してた事もある。

しかし、流石に今月は落とせない。

来月はボーナスだし、そろそろ俺も昇進を視野にいれないとリストラされる危険がある

リストラされるとゲームのレアアイテムを買えなくなるし業者に昼間頼んでいるレベル上げも出来なくなる。  
それは困る、とにかく成績を残さないと。

「よし！今日も頑張って営業しようぜ！おまえら！」

「あゝそうっすね」

「オス！頑張ります！」

大丈夫かよ俺達。。。

未来は暗いぜ。。。

さつきから課長の視線を痛いほど感じるし

とにかく外周りにでも出よう

俺はさつきと書類をまとめて二人を急かし外にでた。

古い営業車に三人乗り込み、出発した。

今日こそは新規の契約を取らないと本当にやばい

しかし、この役に立たない部下二人は、俺の悩みなんてまったくわかってやしない

「吉澤さんって休日何してんすか？」

坂下よ、、それは聞くなよ

独身の38歳の男の休日を聞くなよ！！

お前は俺の休日にそんなに興味があるのか？え？どうなんだ？

お前の休日と違うことだけはハッキリしてるじゃないか！

そんなんだから俺みたいな男の部下なんだよ！

と、言いたかったがこいつは専務か部長の息子だ

そんな事は言える訳が無い

「まあ適当にパチンコでもしてるよ」

これ以上突っ込まれないようにそっけなく答えると

「自分もパチンコ好きです！今度一緒に行きましょう！」

山野よ、、行くわけないだろ！バカ！

パチンコなんかした事ないんだよ！

なんでわかんないんだよ！だいたいなんでお前とパチンコ行くんだよ！え？

毎日お前の暑苦しさにウンザリなのに、なんでお前と休日にパチンコなんだよ！

わかれよ！その空気は読めよバカ！

とは言わず

「ははは。まあそのうちな」

とだけ答えて、おいコーヒー飲まないか？サ店行こうと話を逸らした。

「あれ？今日は頑張るんじゃないんすか？」

坂下。。。コーヒーはいいだろ！！？

コーヒー飲んで頭の回転を早めるんだよ！

打ち合わせもできるじゃないか！バカ！

上司の言うことにイチイチ口出すなよ！

今度は本当に言いかけた、、危ない危ない。

いつもパソコンの画面に向かって怒鳴ってるから

条件反射で文句言いそうだった、ふう

「はは、まあいいじゃないか打ち合わせも兼ねてコーヒー飲もう」

まったく、俺の周りには昔からこんな奴しか集まらない

ああ、早く帰りたいなあ、昨日やり忘れてた任務があるんだよなあ。

「俺、最近ゲームにハマってんすよね」あ、吉澤さんはゲームとか  
しないか、あはは」

え???

突然何を言い出すんだ坂下あ！

俺はゲームするぞ？そつごいゲーマーだぞ？

だってそれが俺の休日、いや人生になってるんだから！

ほら、ゲームの名前を言ってみるよ

まさかな、まさか違うよな？

「へえーそうかあ、昔はゲームやってたぞあ、なんてゲームなんだ  
？」

「いや、パソコンのゲームなんですけどね、ちなみにパソコンって  
言ったのは

吉澤さんにわかりやすいように言っただけで、本当はPCで言うん  
ですけどね」

そんな事は知ってるんだよ坂下あ！聞いてないだろ？早く言えよ！！

「へえーそうかぁPCって言うのか。はっはっは俺ももう年だな」

「自分もパソコンって呼びます！！」

どうでもいいんだよ山野おお！！お前は運転してろよ！喫茶店はいれよ！！

「俺が今一番ハマってるのは（英雄オンライン）ですね。俺のキャラ超強いんですよ」

！！！！

来たか、俺の時代が来たのか

まったく、しょうがない奴だ、今まではただのクソ餓鬼かと思って冷たくしていたが俺が間違っていたようだな、さあ！なんでも聞けよ！

俺が（晴天）だ！はっはっは！驚くだろうなあ

「へえ、英雄オンラインかぁ実はな俺もそ」

「それでえ、ゲームに超イタイ奴がいてマジ笑えるんすよ！あっはっはー！」

坂下はやっぱり空気が読めないんだな、というか俺の雰囲気の変化を感じるよ

まったく、俺が喋ってるのにわざとかぶせて喋っちゃって

「晴天ってオッサンなんですけどね」

## 予想外

おっさん？

痛いのは晴天っておっさん？

は、ははは、俺にもとうきちまったか

更年期障害ってやつが、ちょっと早い気もするが  
よる年波ってやつだな、仕方ない。

「え？坂下なんて名前だっけ？」

「だからあ晴天っていう変なおっさんが面白いんですよ」

やだなあ吉澤さん更年期障害なんじゃないですかあ？あははは！」

俺のことか？

確か俺の記憶が正しければ俺のキャラも晴天だったような、  
それから坂下は、晴天というおっさんのどこがどう痛いのかを  
克明に語りだした。

自称25歳の青年実業家のはずなのに、24時間ゲームしていると  
20年以上前の歌謡曲をたくさん知っているとか

「ごめん」ではなく「めんご」と言うとか

その他諸々だ、、、

それで、他のプレイヤーの会議の結果

40歳前後のリストラされたダメ人間という結果がでたらしい。

「へ、へ。そんな人もいるんだなあ。あは、、あはははは！」

「そんなにこの話し面白いんです？」

俺が無理に笑っているのに気づきもせず、おいうちをかける坂下よ  
俺はやっぱりお前が嫌いだ！！！！

しかし、何故だ！なあぜえだあ！

俺はそんなに嫌われているのか？

いいじゃないか20年前の歌を知ってたって、そんな25歳もいるだろう！

「めんご」じゃだめなのかよ！お前らだって「超」とかいうじゃないか！

ああ、あれか、業者に頼んだレベル上げがまずかったのか。

そうだよな、実業家が昼間からレベル上げはないよなあ

いかん、冷や汗と一緒に涙が。

「そ、そのおじさんは嫌われてるのか？すごく強いんだろ？」

「あれ？なんで強いって知ってるんすか？言いましたっけ？」

ああ！しまったあ！誘導したくてつい！

なんだよ、お前は本当に！なんで余計なとこに気が付くんだよ！

その点は山野の方がマシだな、こいつはいいよあゝバカだから

何言ってもわかってないんだから！わかっててもわかってなくても

「オス！」て言えがいいと思ってるんだから！

あ、そうだお前ら合体しろ！そうだよ合体すればちょうどいいんだよ！

「い、言っただじゃないか！あははは坂下あお前も更年期かあ？あはは！」

「吉澤さんってそんなキャラでしたっけ？超ひくんですけどマジで」

ははは、決めた。

こいつ殺す、ゲームで殺す、もう絶対許さん！

ふふ、ふふふふ、よおしこいつのキャラの名前を聞き出すぞあ

（英雄オンライン）はプレイヤー同士で戦えるし、不意打ちもでき

るんだからなあ  
覚悟しろよお、、

「そつかあ、面白そうだなあ坂下のキャラはなんてキャラなんだ？」  
「俺のキャラっすか？（ハル）ですよ。そのオッサンの門派、ああなんていうか同じチームみたいなのに入ってますよ」

（ハル）、なんだつてえ！

お前か！あの、話しかけても「あ、そう」とかしか言わない  
（ハル）か！

前から気に入らない奴だっと思ってたんだよ、やっぱり現実でも嫌な奴だ！

。。。。

それにしても喫茶店まだか？

「おい、山野。喫茶店見つからないのか？あんまり時間ないぞ」

「オス！吉澤さん、喫茶店入りますか！？」

「いや、入るよ！そう言っただじゃないか！あれ？おい、ここどこだよ」

「オス！自分は知りません！」

はあゝこれだよ、ったくもう  
こいつは本当に使えない奴だな

時計を見るともう2時間も経っているのに驚いた  
2時間も気が付かない俺も俺だが

2時間もただひたすら真っ直ぐ走り続けた山野も山野だ  
今から戻ればまた2時間無駄になってしまう、どうしたものか

「おお、そういえばこの辺は田舎だなあ」

「オス！田舎ッス！」

「そつすね、なんか古い家ばっかですよ」

だいぶ郊外に来てしまっていたようだ、古い家も多いし  
ちょうどいい、この辺で営業してみるか



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0555d/>

---

メタバース

2010年10月9日05時12分発行